

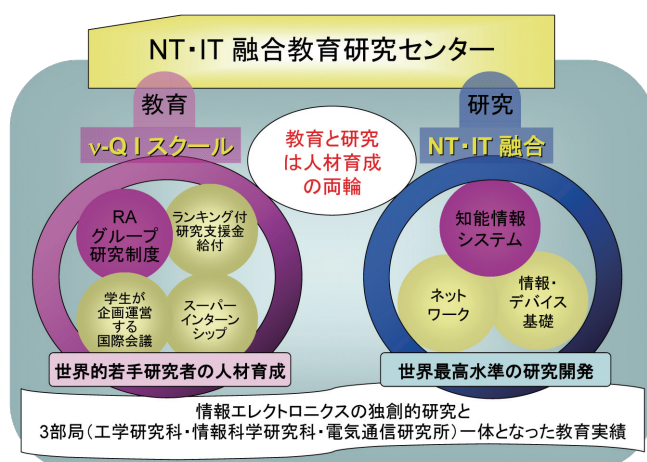
最近の話題

グローバルCOEプログラム 「情報エレクトロニクスシステム 教育研究拠点」

拠点リーダー 安達文幸

平成14年から5年間にわたり続いた21世紀COE拠点（拠点リーダー：内田龍男教授）は平成19年3月でトップクラスの評価を得て終了しました。電気系では、これに引き続き、「情報エレクトロニクスシステム教育研究拠点」（拠点リーダー：安達文幸教授）が全国13拠点の一つに採択され、5年間の教育研究活動を開始しました。21世紀COE拠点の優れた教育研究の実績と経験を継承しながら、知能情報システム分野へと教育研究活動の幅を広げるとともに、大学院教育の実質化と国際化に重点をおいた教育研究を行っています。教育と研究は大学での人材育成の両輪です。独創的研究を通じた教育によって初めて世界をリードする人材を育成できます。教育面では、21世紀COE拠点で設立した大変ユニークなQIスクール（学際・国際・産学交流道場）を更に発展させ、研究企画能力の育成を狙ったりサーチアシスタント（RA）グループ研究制度の新設、教育的競争環境のもとで若手を刺激するランキング付研究支援金の給付の他、

海外拠点と連携したスーパーインターンシップ（3～6ヶ月滞在）および学生が企画運営するミニ国際会議の開催など国際的舞台上で活躍できる人材の育成をめざした教育活動を進めています。一方、研究面では、研究体制を情報・デバイス基礎、ネットワーク、知能情報システムの3グループに再編し、光・無線ネットワークの研究を重点に情報通信デバイスと基礎理論、ヒューマンオリエンテッドな知的情報通信や環境の自律認識・予測に基づく知能情報システムの研究を進めています。



平成19年度採択大学院教育改革支援プログラム 「メディカルバイオエレクトロニクス 教育拠点」

電子工学専攻 教授 吉信達夫

平成19年度新設の文部科学省大学院教育改革支援プログラム事業に、電子工学専攻、電気・通信工学専攻、応用物理学専攻の3専攻が共同で応募した「メディカルバイオエレクトロニクス教育拠点」が採択されました。この事業は、平成17年度から2年間実施した文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業「生体・ナノ電子科学国際教育拠点」の後継プログラムにあたり、実施期間は平成21年度までの3年間です。

「生体・ナノ電子科学国際教育拠点」事業では、3専攻の博士前期2年の課程に「ナノバイオエレクトロニクスコース」を新設いたしました。同コースでは、バイオ関連の授業科目（ナノバイオセンシング、ナノバイオフィジクス、生命倫理）や学生実験（ナノバイオエレクトロニクス学生実験）を新たに開講し、現在、3専攻あわせて約80名の学生が登録しています。

今回の「メディカルバイオエレクトロニクス教育拠点」事業では、上記に加えてメディカル関連の内容を充実さ

せ、大学院版「メディカルバイオエレクトロニクスコース」の設立を目指しております。これにより、平成19年4月に情報知能システム総合学科に新設された学部版「メディカルバイオエレクトロニクスコース」との接続が可能になり、エレクトロニクスのメディカル応用・バイオ応用に関する一貫したカリキュラムが出来上がるようになります。

本事業ではこのほか、年1回の国際シンポジウム（International Symposium on Biomedical and Nano-Electronics in Sendai）開催や、国際交流プログラムの実施、実践的英語教育などを予定しております。

本学は、日本の医用電子工学の発祥といわれる電気式聴診器の発明（大正14年）にはじまる医工連携の長い伝統を持ち、現在においてもメディカル応用は本学のエレクトロニクス研究のひとつの特徴となっております。高齢化社会の到来で医療福祉技術の革新が望まれる今日、研究に加えて教育面でも一層の充実を図ることが課題と考えております。平成20年4月には医工学研究科が設立され、電気系の教員もその一翼を担うことになっていることから、この分野の教育研究を推進する上でタイムリーな取り組みになるものと期待しております。

会員の皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。